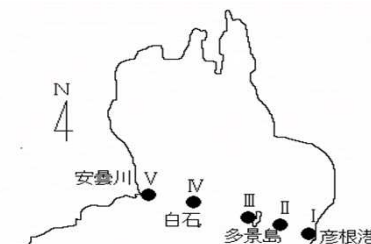


琵琶湖定点定期観測結果速報(令和6年3月)

数値は速報値であり、確定値ではありませんので、ご留意下さい。

調査年月日 令和6年3月14日

調査地点 彦根市～高島市安曇川町に至る5地点
(ただし、湖岸水温は彦根市八坂町
滋賀県水産試験場地先における測定値)



調査地点図

調査結果

平均値 … 5地点の平均値

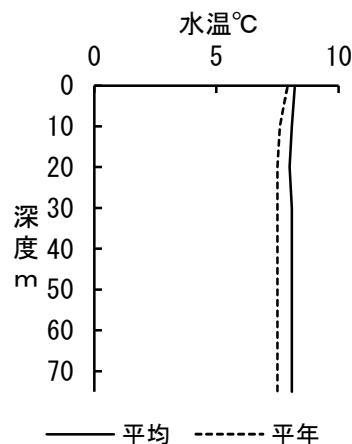
平年値 … 透明度、湖水温、湖岸水温、プランクトン沈殿量は1991年～2020年(平成3年～令和2年)の同時期調査の平均値

DO(溶存酸素濃度)は2014年～2023年(平成26年～令和5年)の同時期調査の平均値

1. 透明度 3月平均値 6.1m 平年値 6.4m

2. 湖水温 (°C)

深度 (m)	3月平均値	平年値	平年差
			(平均値-平年値)
0.5	8.2	7.9	+0.3
10	8.1	7.6	+0.5
20	8.0	7.5	+0.5
30	8.1	7.5	+0.6
40	8.1	7.5	+0.6
50	8.1	7.5	+0.6
60	8.1	7.5	+0.6
75	8.1	7.5	+0.6



3. 湖岸水温 (°C)

月(旬)	平均値	平年値	平年差
			(平均値-平年値)
2月下旬	8.4	7.2	+1.2
3月上旬	8.0	7.8	+0.2
3月中旬	8.7	8.3	+0.4

4. プランクトン沈殿量 (ml/m³)

水層 (m)	3月平均値	平年値	平年差
			(平均値-平年値)
0~10	2.6	5.3	-2.7
10~20	1.6	2.3	-0.7
20~40	2.0	1.8	+0.2
40~75	1.6	1.4	+0.2

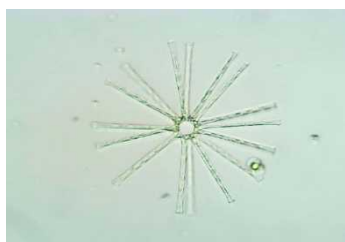
(プランクトンネットNXX14使用)

5. 表層のプランクトン優占種

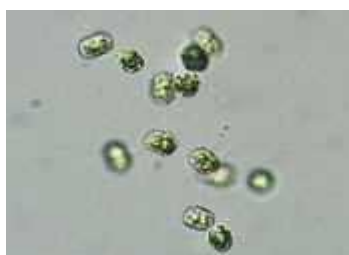
○プランクトンネットNXX14による採集(植物:未固定 動物:5%中性ホルマリン固定)

植物プランクトンについては、地点1、2、3、4で*Asterionella formosa* (ホシガタケイソウ:珪藻)が、地点5では*Cosmocladium constrictum* (コスモクラヂウム:緑藻)がそれぞれ細胞数で最も多く認められたが、*Micrasterias hardyi* (ミクラステリアス:緑藻)も量的には全ての地点で最も多く認められた。

動物プランクトンについては、全ての地点で*Eodiaptomus japonicus* (ヤマトヒゲナガケンミジンコ:カイアシ類)のものと思われるノープリウス期幼生が個体数で最も多く認められた。



Asterionella formosa



Cosmocladium constrictum



Micrasterias hardyi



ノープリウス期幼生

6. DO (溶存酸素濃度 : mg/L) 多項目水質計による測定値。ただし平年値(参考値)はウインクラー法による測定値。

深度 (m)	3月平均値		平年値(参考値)		平年差	
	DO	(酸素飽和度%)	DO	(酸素飽和度%)	DO	(酸素飽和度%)
0.5	11.2	95.5	11.5	101.0	-0.3	(-5.5)
10	11.2	94.8	11.3	98.5	-0.1	(-3.7)
20	11.2	94.7	11.2	97.4	0.0	(-2.7)
30	11.2	94.7	11.1	96.5	0.1	(-1.8)
75	11.2	94.6	10.6	91.4	0.6	(+3.2)